

大館市部活動地域展開推進計画 Ver. 1



令和7年3月
大館市教育委員会

はじめに

学校教育の一環として行われる部活動は、これまで生徒のスポーツ・文化芸術等に親しむ機会を確保し、生徒の自主的・主体的な参加による活動を通じて、責任感、連帯感を涵養するとともに、自主性の育成にも寄与するなど、大きな役割を担ってきました。また、人間関係の構築を図ったり、自己肯定感を高めたりするなどの教育的意義だけでなく、生徒の学校生活に対する意欲向上など、学校運営上も大きな意義があり、さらには学校への信頼感を高めることや、学校の一体感や愛校心の醸成にも大きく貢献してきました。

しかし、急激に進む生徒数の減少は、学校の統廃合や教員数の減少等へとつながり、学校を活動単位とする従前の形態のままでは、生徒のニーズに応じた部活動を継続させることが極めて困難な状況となってきました。また、部活動運営に関しては、これまで教職員による献身的な勤務によって支えられてきましたが、こうした教職員の勤務実態は、長時間勤務の要因の一つとして挙げられる他、競技経験のない部活動を担当する教職員にとっての、大きな負担となっているのが現状です。

近年の中学校部活動を取り巻く状況の変化に伴い、国は「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を策定し、方向性の大枠を示しています。秋田県においても令和5年8月「秋田県における部活動の地域移行推進計画」を策定し、部活動の地域移行に関する基本的な考え方や取組例、県・市町村・学校の役割や地域移行に向けたロードマップなどが示されました。こうした国や県の方針を踏まえ、大館市としても令和4年11月「大館市中学校部活動の地域移行に係る情報交換会」を実施し、今後の展望について関係者からたくさんの御意見をいただきました。また、令和5年12月には「大館市中学校部活動地域移行推進連絡協議会」を設置し、推進計画の在り方について具体的な検討を重ねてきたところです。

この度策定した本推進計画は、国のガイドラインや県の方針、大館市中学校部活動地域移行推進連絡協議会での協議を踏まえ、本市が目指す姿を明らかにし、そのために必要となる事項についてまとめたものです。本推進計画を進めていくことで、子どもたちの健全な育成を地域全体で支え、さらには地域の活性化へと発展させていくことを目指します。

目 次

1 推進計画策定の背景 1

- (1) 生徒数の減少と部活動の今後 1
- (2) 教師の働き方改革 3
- (3) アンケート調査結果 4

2 基本目標と基本方針 8

- (1) 基本目標 8
- (2) 基本方針 8

3 地域展開に向けたロードマップと推進体制 8

- (1) 地域展開に向けた市・中学校・関係団体の役割 1 0
- (2) 「拠点校方式」及び「合同部活動方式」による対応 1 2
- (3) 部活動として活動していない種目の学校引率について 1 2

4 学校部活動の地域展開に向けた課題と対応 1 3

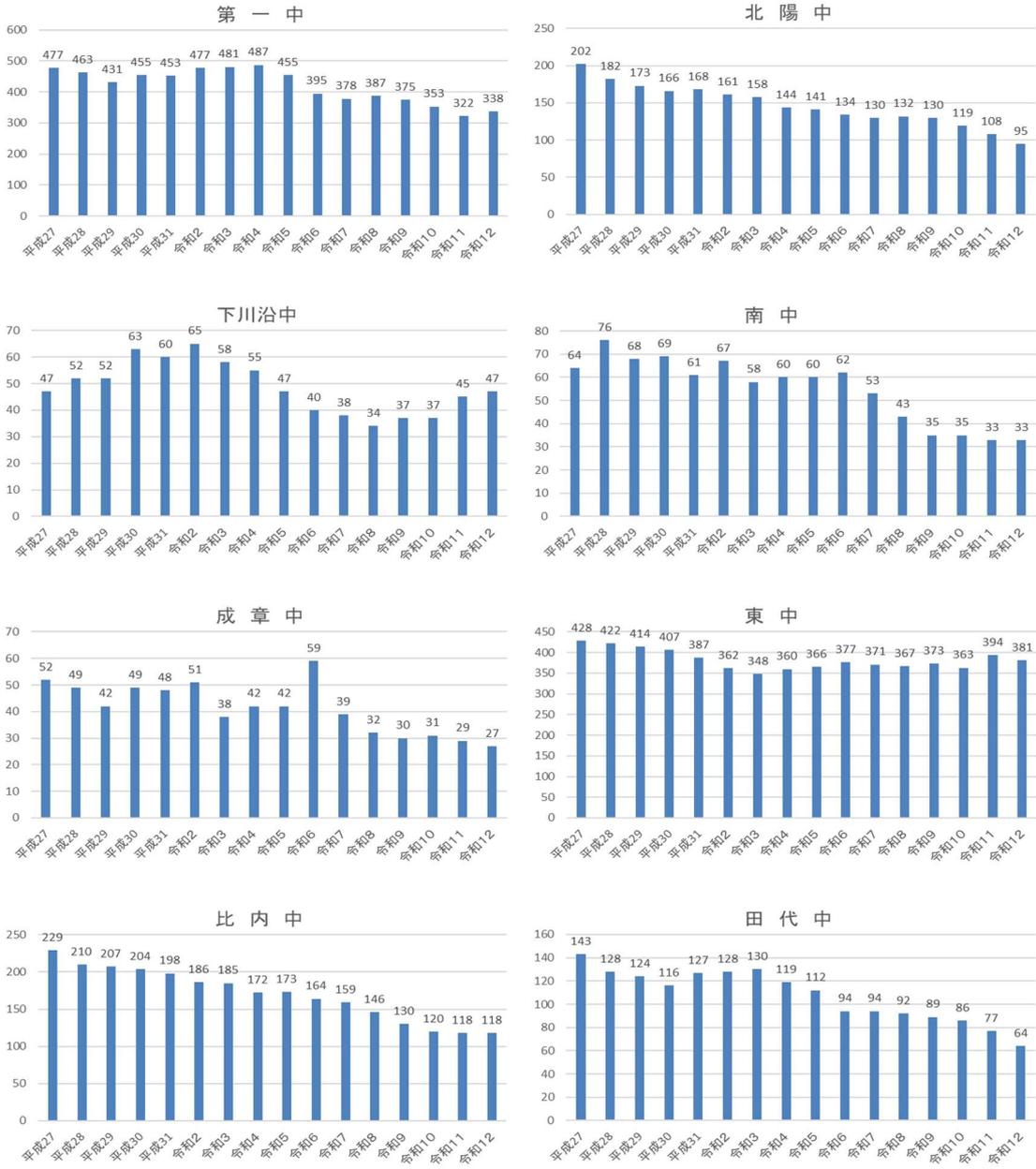
- (1) 地域クラブの要件について 1 3
- (2) 地域クラブの大会等への参加について 1 3
- (3) 保護者負担について 1 3
- (4) その他 1 3

1 推進計画策定の背景

(1) 生徒数の減少と部活動の今後

生徒数の減少により、教員数も大幅に減少している。市内中学校の生徒数は、多少の増減はあるものの、平成 27 年度から令和 6 年度までにおよそ 2 割減少しています。今後も少子化は進み、市全体では 6 年後にはさらに 2 割程度減少する見込みです。

【 生 徒 数 推 計 】



(令和 6 年 3 月「児童生徒数等に係る調査」をもとに作成)

※令和 7 年度以降の数値には、県立中学校進学等による生徒数の減少を含んでいない

表1 令和6年度学校別部活動設置状況一覧

	第一中	北陽中	下川沿中	成章中	南中	東中	比内中	田代中	
運動系	野球								
	バスケ男	バスケ男				バスケ男			
	バスケ女	バスケ女				バスケ女			
	テニス男	テニス				テニス男	テニス男		
	テニス女					テニス女	テニス女		
	卓球男	卓球	卓球	卓球	卓球	卓球男	卓球男	卓球男	
	卓球女					卓球女	卓球女	卓球女	
	陸上競技	陸上競技		陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技	
	バレー男					バレー男			
	バレー女		バレー女			バレー女	バレー女	バレー女	
	水泳男女		水泳			水泳	水泳		
	サッカー								
	柔道					柔道			
	剣道					剣道			
	文化系		学芸				創作		学芸
		科学							
吹奏楽		吹奏楽							
放送									
美術									

表2 令和6年度学校別部活動加入状況一覧

	第一中				北陽中				下川沿中				成章中				南中				東中				比内中				田代中				1年	2年	3年	合計
	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計								
野球	7	8	14	29	10	3	1	14	2	6	3	11	2	3	1	6	5	5	6	16	5	10	10	25	6	8	6	20	11	9	7	27	48	52	48	148
バスケ男	7	8	3	18	5	1	4	10				0				0				0	7	11	9	27				0				0	19	20	16	55
バスケ女	5	4	7	16	3	5	4	12				0				0	6	4	6	16				0				0				0	14	13	17	44
テニス男		3	6	9	4	4	8	16				0				0	10	3	9	22	4	4	3	11				0	18	14	26	58				
テニス女	33	10	4	47	7	4	2	13				0				0	6	5	2	13	5	10	2	17				0	51	29	10	90				
卓球男	3	4	10	17	2	6	4	12	4	2	4	10				0	3	2	1	6	2	6	4	12	3	2	9	14	3	6	7	16	20	28	39	87
卓球女	4	5	9	18	0	4	1	5	4		1	5	3	2	5		0	1	4	5	4	4	9	17	4	1	7	12	2	1	3	6	13	19	25	57
陸上男	5	7	4	16			8	8				0	2	5	2	9		5		5	4	4	4	12	5	1	4	10	1	6	7	14	16	23	28	67
陸上女	4	6	1	11	1	2	3					0	4	2	6	12	2	4	8	14	6	6	11	23	4	4	6	14	3	2		5	19	27	30	76
バレー男	10	4	6	20				0				0				0	13	2	11	26				0				0	23	6	17	46				
バレー女	8	5	4	17				0		2	2					0	14	5	15	34	1	5		6	2	4	2	8	25	19	23	67				
水泳男	2	2	3	7				0	1		1					0	2		4	6				3	3			0	4	3	10	17				
水泳女	2			2				0	1		1					0	2	7		9	1	5	1	7				0	5	13	1	19				
サッカー	5	2	8	15				0				0				0				0				0				0	5	2	8	15				
柔道男	1	5	4	10				0				0				0	1		1	2				0				0	2	5	5	12				
柔道女	2	1		3				0				0				0				0				0				0	2	1	0	3				
剣道男			1	1				0				0				0				0				2	2			0	0	0	0	3				
剣道女				0				0				0				0				0				0				0	0	0	0	0				
創作				0				0				0				0				0	6	7	4	17				0	6	7	4	17				
学芸				0	0	4	2	6				0				0				0				0	3	1	3	7	3	5	5	13				
科学	3	10	11	24				0				0				0				0				0				0	3	10	11	24				
吹奏楽	4	7	10	21	1	8	5	14	5	2	7	14	5	5	10	20	1	3	3	7	9	7	9	25	2	3	6	11	9	4	3	16	31	37	43	111
放送	7	3	3	13				0				0				0				0				0				0	7	3	3	13				
美術	13	9	10	32				0				0				0				0				0				0	13	9	10	32				

生徒数の減少により、ここ数年の間に、単独校での部活動が継続できず、近隣の学校と合同チームを組むなどの対応により、活動を継続しているケースや、やむを得ず廃部に追い込まれたケースもありました。少子化による学級数の減少は、配置される教員数の減少へとつながり、担当顧問の減少は、学校部活動数の削減へとつながっていきます。こうした状況のなか、学校部活動をこれまでと同様の体制で継続することは、困難であると言えます。

このような状況を背景として、本市としても、子どもたちのスポーツ・文化芸術活動の実現を、学校単位から地域単位へと展開していくことにより、子どもたちの興味・関心にこたえられる活動環境を整え、将来にわたって維持していくための体制を構築していくことが必要となります。

(2) 教員の働き方改革

少子高齢化や情報化の急速な進展など、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化する中、いじめ・不登校への対応や新型コロナウイルスをはじめとする感染症への対応など、教職員が取り組まなければならない課題も多様化・複雑化しており、教職員の厳しい勤務実態が社会問題化しています。県教育委員会の調査では、月当たり時間外在校等時間が45時間を超えた割合は、小学校・特別支援学校と比較して、中学校・高校が高く、その中でも中学校での超過勤務が目立っており、主な要因として1位が「部活動」、2位が「調査・報告」、3位が「分掌事務」となっています。

表3 時間外在校等時間の状況（令和4年度実績）

	平均時間外在校等時間(時間)	月当たり時間外在校等時間(延べ人数)			年間時間外在校等時間が360時間を越えた人数(実人数)
		0～45時間	45超～80時間	80時間超～	
小学校	33.1	28,656	8,621	683	1,788
		75.5%	22.70%	1.8%	56.2%
中学校	48.8	12,164	9,904	3,385	1,634
		47.8%	38.9%	13.3%	76.6%

「2021 教職員が実感できる多忙化防止計画」検証結果（令和5年7月秋田県教育委員会）



(3) アンケート調査結果（令和6年1月実施）

部活動の地域移行について検討するにあたり、小学校5、6年生児童の保護者、中学生1、2年生及びその保護者、中学校に勤務する教職員を対象に意識調査を実施しました。

【対象】小学校5、6年生児童の保護者	
回答数 462名	
Q：お子さんが中学校へ入学後、これまでの学校部活動ではなく、地域の指導者が指導するスポーツ・文化芸術活動（すでにある地域クラブも含む）になったとしたら、その活動にお子さんを参加させたいと思いますか。	
A：参加させたい	174名(37.7%)
どちらかというに参加させたい	185名(40.0%)
どちらかというに参加させたくない	81名(17.5%)
参加させない	22名(4.8%)
Q：お子さんに参加させたいスポーツ・文化芸術活動は、どのような内容のものですか。	
	(複数回答可)
A：特定のスポーツ・文化芸術活動を継続的・長時間にわたり専念する活動	285名(79.4%)
様々なスポーツや文化芸術活動の体験教室のような活動	83名(23.1%)
様々な年代や世代と交流できる活動	63名(17.5%)
シーズン制のような複数の運動種目を経験できる活動	59名(16.4%)
レクリエーション的な活動	36名(10.0%)
障害の有無にかかわらずだれもが一緒に参加できる活動	1名(0.3%)
コーチが子どもたちを認め、成長させてくれる活動	1名(0.3%)
子どもが参加したい活動	1名(0.3%)
子どもが選んだもの	1名(0.3%)
Q：お子さんを参加させたくない理由は、次のどれに当てはまりますか。（複数回答可）	
A：送迎の負担が大きいから	75名(72.8%)
家計の負担が大きいから	33名(32.0%)
勉強する時間をもたせたいから	21名(20.4%)
自分の好きなことをして過ごす時間をつくってほしいから	20名(19.4%)
子どもが興味をもっているスポーツや文化芸術活動がないから	19名(18.4%)
家族と過ごさせたいから	11名(10.7%)
ゆっくりと休ませたいから	10名(9.7%)
友達と過ごす時間をもたせたいから	8名(7.8%)
その他	29名(28.2%)

子どもが中学校へ入学後、これまでの学校部活動ではなく、地域の指導者が指導するスポーツ・文化芸術活動（すでにある地域クラブも含む）になった場合であっても、77.7%の保護者が、「参加させたい」「どちらかというに参加させたい」と回答しています。「どちらかとい

うと参加させたくない」「参加させない」と答えた主な理由としては、「送迎の負担が大きいから」が最も多く 72.8%、次いで「家計の負担が大きいから」が 32.0%となっており、保護者にかかる負担が大きな理由として挙げられます。

【対象】中学校 1、2 年生	
回答数 316 名	
Q：あなたは今、学校の部活動に所属していますか。当てはまる記号を選んでください。	
A：所属していない	33 名 (10.4%)
所属している	283 名 (89.6%)
Q：あなたが部活動に所属している目的は、次のどれに当てはまりますか。(複数回答可)	
A：体力や技術が向上させる	138 名 (48.8%)
大会・コンクール等で良い成績を収める	113 名 (39.9%)
友達と楽しく活動する	96 名 (33.9%)
チームワークや協調する力が身に付ける	78 名 (27.6%)
友達と楽しく活動する	37 名 (13.1%)
特にない	33 名 (11.7%)
部活動以外に取り組めるものがない	8 名 (2.8%)
学校以外に活動場所・施設がない	3 名 (1.1%)
サッカー部がなかったから	2 名 (0.7%)
その他	9 名 (3.6%)
Q：あなたが部活動に所属しない理由は、次のどれに当てはまりますか。(複数回答可)	
A：学校以外のスポーツ・文化芸術クラブ等に所属している	18 名 (54.5%)
勉強に集中したい	6 名 (18.2%)
入りたい部活動がない	5 名 (15.2%)
他にやることがあって、部活動に参加する時間がない	3 名 (9.1%)
特にない	1 名 (3.0%)
	13 名 (39.4%)
Q：あなたは、学校以外でのスポーツ・文化芸術活動を選んだ理由は、次のどれに当てはまりますか。(複数回答可)	
A：部活動より競技・技術レベルが高いから	9 名 (45.0%)
部活動より専門的な指導が受けられるから	9 名 (45.0%)
他の学校の友達と一緒にできるから	6 名 (30.0%)
部活動にはやってみたい競技種目や分野がないから	6 名 (30.0%)
趣味などの他の活動と両立できるから	2 名 (10.0%)
その他	5 名 (25.0%)

部活動に加入していない生徒の中には、学校以外でのスポーツ・文化芸術活動に加入して活

動している生徒もおり、そのなかには、より高いレベルでの活動や指導を求めている生徒が一定数いることが分かります。また、自身が所属する学校の部活動には「やってみたい競技種目や分野がないから」ということを理由に、学校以外で活動を行っている生徒もいることが分かりました。

【対象】 中学校 1・2 年生保護者

回答者数 369 人

Q：お子さんの部活動に最も期待していることは、次のどれに当てはまりますか。

(複数回答可)

A：チームワークや協調する力を身に付ける	275 人(74.5%)
社会性（挨拶・礼儀等）を身に付ける	217 人(58.8%)
体力や技術を向上させる	211 人(57.2%)
友達と楽しく活動する	182 人(49.3%)
自信を付ける	104 人(28.2%)
大会・コンクール等で良い成績を収める	96 人(26.0%)
放課後の居場所となる	15 人(4.1%)
特に理由はない	3 人(0.8%)
その他	6 人(1.8%)

Q：お子さんに参加させたい（参加させている）スポーツ・文化芸術活動は、どのような内容のものですか。

A：特定のスポーツ・文化芸術活動を継続的・長時間にわたり専念する活動	252 人(69.8%)
様々な年代や世代と交流できる活動	78 人(21.6%)
様々なスポーツや文化芸術活動の体験教室のような活動	69 人(19.1%)
シーズン制のような複数の運動種目を経験できる活動	39 人(10.8%)
障害の有無にかかわらず誰もが一緒に参加できる活動	41 人(11.4%)
レクリエーション的な活動	32 人(8.9%)
その他	5 人(1.5%)

Q：お子さんを参加させたくない理由は、次のどれに当てはまりますか。（複数回答可）

A：送迎の負担が大きいから	27 人(49.1%)
勉強する時間をもたせたいから	13 人(23.6%)
ゆっくりと休ませたいから	11 人(20.0%)
自分の好きなことをして過ごす時間をつくってほしいから	11 人(20.0%)
家族と過ごさせたいから	8 人(14.5%)
子どもが興味をもっているスポーツや文化芸術活動がないから	9 人(16.4%)
家計の負担が大きいから	8 人(14.5%)
友達と過ごす時間をもたせたいから	7 人(12.7%)
特にない	3 人(5.5%)

その他

17人(30.6%)

部活動に期待することとして、「チームワークや強調する力を身に付けること」の割合が最も多く74.5%、次いで「社会性（挨拶・礼儀等）を身に付けさせる」が58.8%、「体力や技術を向上させる」が57.2%となりました。また、子どもを地域の活動に参加させたくない理由として最も多かったのが、「送迎の負担が大きいから」の49.1%であり、小学校5、6年生保護者の回答と同様の結果でした。

【対象】教職員（中学校）

回答者数 115人

Q：現在、部活動顧問を務める種目の競技歴の有無を教えてください。

A：競技経験あり	46人(40.0%)
競技経験なし	51人(44.3%)
部活動を担当していない	18人(15.7%)

Q：部活動に対して負担を感じることを教えてください。

A：休日の練習への従事	87人(16.9%)
平日の練習への従事	74人(14.4%)
練習試合や大会等への引率	74人(14.4%)
技術指導	70人(13.6%)
大会運営のへの従事	70人(13.6%)
保護者対応	68人(13.2%)
活動日程の調整	54人(10.5%)
負担と感じたことは特にない	10人(1.9%)
その他	8人(1.6%)

中学校で部活動指導にあたっている教職員の半数が、「競技経験なし」と回答しています。また、「休日の練習への従事」について負担を感じている教職員の割合が最も多いことが分かります。一方で、「負担と感じたことは特にない」と回答している教職員も1.8%おりました。

2 基本目標と基本方針

(1) 基本目標

新たなスポーツ・文化芸術活動の環境を構築する取組「部活動の地域展開」（これまで学校で行われてきた「部活動」を地域全体で支える体制づくり）は、現在の子どもや教員が抱える課題を解決するのみならず、地域全体の文化・スポーツ振興につながる可能性を有しています。大館市では、部活動の地域展開を経て、これまで学校教育の一環として学校が実施してきた「学校部活動」を、地域団体が実施する活動へと展開します。このことにより、少子化が進む中であっても、生徒のスポーツ・文化芸術活動の持続可能な体制づくりを目指します。

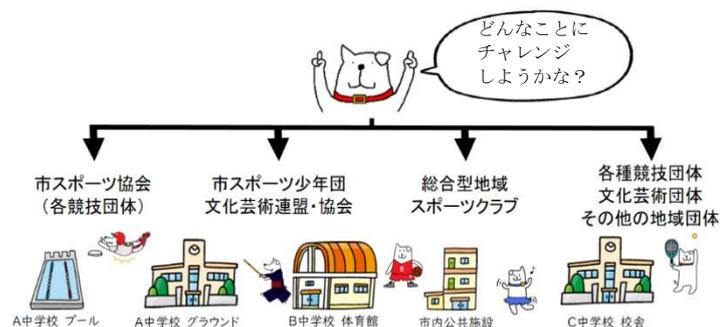
(2) 基本方針

- 大館市の実情を鑑み、中学校部活動の「地域展開」という理念のもと、令和13年度を地域展開達成目標年度とします。
- 地域展開を進めるにあたっては、当面教育委員会がスポーツ振興課と連携を図りながら推進します。
- 展開上の新たな提案や課題解決については、必要に応じて協議の場を設け、生徒の活動にできるだけ支障が出ないよう配慮をしていきます。
- 教員は、本務に支障のない範囲で、地域クラブの指導ができるものとします。

3 地域展開に向けたロードマップと推進体制

学校部活動の地域展開を実現するために、次の年次計画により、関係機関が連携を密にして進めていきます。

令和7年度	推進計画の周知と各関係機関・地域・保護者等への働きかけ
令和8年度	地域クラブの設立支援及び市の支援方法の策定と実施 拠点校方式による部活動の積極的な実施開始
令和9～12年度	活動状況の把握及び課題等の解決
令和13年度	本格的な地域展開



(1) 地域展開に向けた市・中学校・関係団体の役割

①大館市教育委員会

大館市教育委員会は、「大館市部活動地域展開推進計画」を策定し、学校部活動が円滑に地域展開できるよう体制を整備します。また、アンケートなどを通じた生徒等のニーズ把握、新たな環境の整備方法等に関する連絡協議会の開催、スポーツ・文化芸術活動の受け皿の確保・支援、必要な財源等の確保・支援、秋田県・大館市立中学校・大館市内関係団体等との調整を図ります。

【令和7年度】

- 令和13年度の完全地域展開に向け、教育委員会、スポーツ振興課が相互に情報交換ができるシステムを構築し、部活動の地域展開がスムーズに進むようにします。
- 活動場所への移動方法、補助金、指導者育成、保険加等々の課題を解決します。

【令和8年度】

- 地域クラブへの補助金、指導者（認定講習）、施設等の支援方法を検討します。
- 教育委員会は、各学校の展開状況を随時把握して課題発生時には即時対応できるように体制を整えます。

【令和9～12年度】

- 教職員等が地域クラブの指導者として快く活動し、加重労働とならないように監督をします。
- 市校長会からの提言を具体化します。

【令和13年度】

- 完全地域展開上の課題を解決します。当面は、学校教育課が主管となって学校と連携を図り、関係団体の協力を得ながら円滑な地域展開を推進します。

②大館市立中学校

第一中学校、北陽中学校、下川沿中学校、南中学校、成章中学校、東中学校、比内中学校、田代中学校は、生徒の教育や健全育成に関する専門性と実績を生かし、秋田県及び大館市の関係部署や地域における関係団体等と協力・協働して、活動に参加する生徒の情報共有など地域クラブ環境の整備に取り組みます。

各中学校長は、国、県及び大館市教育委員会が示す方針に基づき、学校の働き方改革を踏まえた部活動改革が進むよう、関係者との連携・協力を図ります。また、生徒が地域の活動に参加しやすい環境となるよう、生徒や保護者及び教職員に周知を徹底します。

【令和7・8年度】

- 各学校では、「大館市部活動地域展開推進計画」に基づき、運動・文化部の活動地域展開

について協議する組織を編成し、自校の現状を把握するとともに、円滑な地域展開をサポートします。

【令和9・10年度】

- 学校単独での部活動が継続できない場合は、「拠点校方式」及び「合同部活動方式」による活動の継続を検討し、関係校長間での協議及び協力の下、生徒の活動環境の整備に努めます。
- 運動・文化部活動の地域展開上の課題を整理し、解決策について市校長会を經由し教育委員会に提言します。
- 教職員の地域クラブでの指導が円滑に行われるよう、職員総意のもとで支援を行います。

【令和11年度】

- 地域クラブの受け入れ態勢が整った競技については、学校部活動の新規募集を原則停止します。
- 近隣の学校や地域クラブ等と連携を取りながら、部活動に所属する2、3年生の活動の継続実現を図ります。

【令和12年度】

- 生徒及び保護者に対して、地域クラブに関する情報提供を積極的に行います。

【令和13年度】

- 完全地域展開のスタート

③市スポーツ協会、各競技団体、総合型地域スポーツクラブ、各文化芸術連盟・協会及びその他の地域クラブ

大館市スポーツ協会、各競技団体、大館市総合型地域スポーツクラブ、各文化芸術連盟・協会及びその他の地域クラブは、大館市教育委員会、大館市立中学校及び関係団体と連携・協力し、これまでの実績を生かして、本推進計画の実施に参画します。

【令和7年度】

- 中学生の引き受け可能なクラブ・団体の把握と新たに立ち上げようとするクラブへの支援を行います。
- 地域クラブの活動状況について、各校へ情報を提供します。(募集チラシ等)
- 各中学校の展開状況を把握し、必要に応じて相談活動を行います。

【令和8年度】

- 「拠点校方式」、「合同部活動方式」による部活動の実施上の課題の洗い出しを行い、行政と連携し、その解決に向けた調整を行います。
- 各競技、文化芸術団体と連携を図り地域クラブ指導者の発掘に努めます。

【令和9～12年度】

○地域展開のよりよい活動に向け、行政に対して提言します。

【令和13年度】

○完全展開の状況を把握し、必要に応じて運営方法や指導方法の助言を行う。

(2) 「拠点校方式」及び「合同部活動方式」による対応

各中学校では、生徒数の減少に伴う学校の小規模化、部活動指導教員不足などの課題を抱え、生徒の興味・関心に応じた部活動の設置・運営に困難な状況があります。こうした状況のなか、「学校部活動」から「地域展開」に至るまでの方策の一つとして、「拠点校方式による部活動（在籍する学校に希望する部活動がなく、他校の部活動に加入し活動する）」及び「合同部活動方式による部活動（在籍する学校の部活動の部員数が少なく、大会参加ができない場合、同様の事情を抱えた他校と合同で活動する）」の実施を推進し、将来的な地域展開を目指します。

実施主体は、大館市立中学校です。

○大会参加については、各大会、コンクールの要項等に定める出場規定に準じて行います。

○次に示すグルーピングを基本とします。ただし、他市町村立中学校、県立中学校等とのチーム編成を拒むものではありません。

A グループ：「北陽中学校」「下川沿中学校」「田代中学校」

B グループ：「南中学校」「成章中学校」「比内中学校」

※将来的には、Aグループと「第一中学校」、Bグループと「東中学校」によるチーム編成を想定しています。

○指導者については、関係中学校長同士の協議と協力の下で適切にあてるものとします。

○拠点までの移動は、保護者による送迎または各校のスクールバス等で対応します。活動後は、保護者による送迎等とします。

○保険は、学校管理下内の活動として日本スポーツ振興センターによる給付金制度の適用とします。

○部活動指導員の活用や、関係団体との連携した運営体制などを検討します。

○その他必要な取り決めは、当該校間で行います。

(3) 部活動として活動していない種目の学校引率について

○現在地域クラブとして練習・大会参加している活動に関しては、継続します。(例：テニス、トランポリン、剣道、柔道、サッカー、バドミントン、マーチングバンドほか)

○部活動ではないが、大会参加の付帯条件として学校から引率を要請される大会に関しては、令和10年度から行いません。(例：アルペンスキー、クロスカントリースキー、ジャンプ、相撲、水泳ほか) スキー競技への対応については、スキークラブ母体のクラブチームを立ち上げ、大会にはクラブチームで参加します。(例：鹿角スキークラブ)

○新規種目については、令和10年度以降学校は関与しません。

4 学校部活動の地域展開に向けた課題と対応

(1) 地域クラブの要件

新たに受け皿となるクラブについては、新設又は既存クラブを問わないこととしますが、学校との連携が図れていることや指導体制が構築されていること、各競技団体との連携が図れていること、クラブ規約等により適切な運営を行っていることなどを確認し、さらに国や県、市が示すガイドラインを遵守することを要件として設定します。これにより、実施に当たり運営主体や各クラブ内でのトラブル等を回避し、子どもたちがのびのびとスポーツ・文化芸術活動を楽しめる環境を維持します。

また、指導者の資質及び能力維持のため、研修や講習会等の在り方について検討します。

(2) 地域クラブ活動の大会、コンクール等への参加について

部活動の地域移行化に伴い、令和5年度から、日本中学校体育連盟が主催する全国中学校体育大会及び全日本吹奏楽連盟が主催する全日本吹奏楽コンクールにおいて、それぞれが示す参加条件を満たした地域クラブや複数校の合同チームが参加できるようになりました。これを受け、県や地域、市の中学校体育連盟でも同様の措置をとっております。

今後はさらに地域クラブや合同チームでの参加が増加するものと考えられることから、日本中学校体育連盟及び全日本吹奏楽連盟との連携を図り、各クラブ・団体等への情報提供や支援に努めていきます。

(3) 保護者負担

クラブの活動経費や保険料、大会等の参加料等、保護者負担（会費）が発生いたします。現状の部費（親の会費）相当での設定が想定されますが、競技によって異なる場合も考えられることから、保護者に理解を得ながら設定することが重要です。保険料については日本スポーツ振興センターによる給付金制度は対象外となるため、生徒、指導者とも自己負担となります。なお、指導者報酬については、持続可能な運営の観点から、会費負担も含め検討を進める必要があります。

(4) その他

- 指導者の認定については、地域クラブ、スポーツ少年団等で認定の方法や研修等が違うため、いずれ統一されることが望ましいと考えます。
- 指導者の確保については、地域展開上大きな課題であり、教育委員会の他、スポーツ振興課やスポーツ協会、各競技団体、生涯学習課、各文化芸術連盟・協会等が情報を密にし、新たに発掘・養成する必要があります。併せて、指導者を支える運営体制の整備が必要です。
- 教育委員会は、推進計画を各学校・保護者・地域への周知を図り、国や県の動向を注視しながら、様々な意見に耳を傾けながら必要に応じて修正していきます。
- 各校においては、次年度担当が異動等によって変更になった場合でも、継続した対応がなされるように特段の配慮が必要となります。

おわりに

学校部活動は、長年にわたり中学校等において設置・運営され、学校における教育活動の重要な要素となってきました。また、子どもたちだけでなく、保護者や地域住民等の様々な人々が深く関わってきたことから、その在り方は国民的な関心事となっています。

しかし、学校部活動を巡り様々な課題が指摘されるとともに、多くの地域において、少子化の進行により持続可能ではないという危機感が共有されています。

このような状況の中、本市では、学校部活動の抱える課題解決に当たり、学校のみならず、地域全体での取組が不可欠であると考え、子どもたちを含めた地域住民全体が、スポーツ・文化芸術活動に継続して親しむ環境づくりに取り組みながら、地域づくり・地域振興へと発展させていくことを目指します。

また、大館ふるさとキャリア教育の理念のもと、「大館盆地を学舎に 市民一人一人を先生に」というコンセプトの実現に向けて、スポーツや文化芸術活動を通じた子どもの健やかな成長のために、学校教育のみならず、学校と地域・保護者が連携・協力しそれぞれの役割を果たしていくことが重要となります。

そのため、本推進計画は、諸課題を解決するための複数の道筋や多様な方法があることを前提とし、関係者の連携・協働により学校部活動の地域連携や地域展開を進めるための選択肢を示したものです。本推進計画をもと、これまでの学校部活動が担ってきた教育的意義を継承・発展させつつ、新たな価値を創出していくため、各校、関係団体等と連携しながら、子どもたちが今後もスポーツ・文化芸術活動に親しむことのできる環境を構築していきたいと考えています。

